

令和4年度 第1回京都市保健所運営協議会 摘録

令和4年6月27日（月）
午後1時30分～午後2時40分
ハートンホテル京都2階「嵯峨・高雄の間」

1 出席者（敬称略） *はWEB参加

<委員>

○ 関係団体代表委員

京都府医師会：松田 義和	京都府歯科医師会：岸本 知弘*
京都府薬剤師会：夏目 君幸*	京都市食品衛生協会：太田 眞一
京都府旅館ホテル生活衛生同業組合：（欠席）	京都府公衆浴場業生活衛生同業組合：（欠席）
京都府理容生活衛生同業組合：佐藤 正一	京都府美容業生活衛生同業組合：原口 潔治

○ 各区地域保健推進協議会代表委員

北（北医師会）：余 みんてつ*	上京（西陣医師会）：（欠席）
左京（左京医師会）：伊地智 俊晴*	中京（中京保健協議会連合会）：沼田 幸夫
東山（東山医師会）：（欠席）	下京（下京東部医師会）：（欠席）
南（南保健協議会連合会）：藤井 富美子*	右京（右京医師会）：（欠席）
西京（西京民生児童委員会）：中路 和代*	伏見（伏見保健協議会連合会）：（欠席）

<事務局>

○ 京都市保健所

京都市保健所長：池田 雄史	京都市保健所次長：谷利 康樹
京都市保健所参事：松村 貴代	京都市保健所参事：有本 晃子

（健康長寿のまち・京都推進室／健康長寿企画課）

健康長寿のまち・京都推進室長：阪本 一郎	健康長寿企画課長：工藤 直之
健康長寿推進担当課長：絹村 円	計画推進担当課長：田賀 千津

（医療衛生推進室／医療衛生企画課）

医療衛生推進室長：志摩 裕丈	ワクチン担当部長：吉田 就一
医療衛生企画課長：中濱 正晃	感染症企画担当課長：今崎 匡裕
感染症対策担当課長：井上 ひろみ	

（障害保健福祉推進室）

施設福祉課長：北垣 政治	
--------------	--

（子ども家庭支援課）

子育て世代包括支援担当課長：寺山 京美	
---------------------	--

2 開会挨拶

池田保健所長

3 議事

○ 議題・報告（1）新型コロナウイルス感染症に係る京都市保健所の対応状況について

⇒ 事務局（医療衛生企画課）から資料説明。

【質疑応答】

沼田委員：今年には特にこの暑さの問題もあって、高齢者であれば接種しておくことが大事だと言っているが、4回目はもう打たないという方もいて、高齢者の接種率が落ちることを心配している。

吉田部長：海外の研究報告によっても感染予防効果はそれほど長くは持たないが、重症化予防効果はある程度、長期間保たれるということも示されている。重症化リスクが高いと言われる年齢の高い方にはできる限りワクチン接種を受けていただきたい。例えば民生委員の方々のお力をいただく等、地域にお住まいの高齢者にワクチン接種の情報をお届けしたり、医師会、地区医師会の先生方にも御協力いただき、高齢の方が診療所や病院に定期的に通院される際にお声掛けいただく等の取組を地道にさせていただいたり、また重症化予防効果があるということをしかり発信する取組も進めていく。

伊地智委員：ワクチン接種に当たって、左京区では特に混乱した事例等は聞いていない。

岸本委員：全国的なデータであるが、患者さんからコロナに感染するケースが出てきたこともあり、段々と歯科領域にもコロナが近づいてきたと感じている。歯科医師会も接種に関して医師会の方と協力させていただく。

夏目委員：モデルナ社ワクチンの備蓄が多く、全国的に期限を切らしてしまったという事例があったと思う。また、副反応が非常に少ないというノババックス社の問い合わせもあるのだが、供給の状況はいかがか。

吉田部長：1、2回目接種は9割以上の方がファイザー社ワクチンを接種されているが、3回目接種からはモデルナ社ワクチンの方が多く供給されるような状況になっている。4回目接種については、ファイザー社ワクチンが25%に対してモデルナ社ワクチンが75%の割合で国から供給されたところである。一方で、これまでに打ったファイザー社ワクチンを接種したいという市民も多いこともあり、この5月に京都市では、モデルナ社ワクチン8万回分の使用期限が切れたということで廃棄をせざるをえなくなった。4回目の接種についても、一定京都市のワクチン配送センターで持っているファイザー社ワクチンを、個別接種を行われる医療機関の方にはできる限り多くお配りをする方向で医療機関の先生方には連絡をさせていただいている。可能な範囲でファイザー、モデルナ社ワクチンをお配りしているというような状況である。

3種類目のノババックス社ワクチンについては、発熱等の発生頻度がこれまでの2つのワクチンよりは低いということで、副反応が少ないのではないかとされているが、京都市内の医療機関でも現時点で3つ、4つぐらいの医療機関で取り扱いをされると

ということと、京都府が設置している京都タワー会場でも一部日程でノババックス社ワクチン接種をされている状況である。そういった情報については京都市のウェブサイト「京都市新型コロナワクチン接種ポータルサイト」でご案内をされており、副反応が心配でノババックス社ワクチンを希望される方にも選んでいただける環境を整えるようにしているところである。ただ、ノババックス社ワクチンでご注意いただきたいのが3回目までしか打つことができず、4回目で打つことができないため、その点は注意して進めてまいりたい。

○ **議題・報告（2）令和4年度熱中症予防啓発の取組について**

⇒ 事務局（健康長寿企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長：今年例年に加えて熱中症のリスクが高まっている。今般の円安物価高での電気代節約、あるいは、そもそも高齢者はあまりエアコンをつけない傾向があるため、在宅での熱中症の発生がかなり懸念される。命に関わるため、エアコンの使用に関してはしっかりと啓発をお願いしたい。また、乳幼児に対しても、あまりエアコンをかけない方がよいという誤った認識もあることから、感染症による熱発と熱中症の合併が問題になってきているため、医師会としても積極的な啓発活動を考えているため、行政と協力しながら進めていきたい。

○ **議題・報告（3）ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン予防接種に係る積極的勧奨の再開について**

⇒ 事務局（医療衛生企画課）から資料説明。

【質疑応答】

松田会長：HPVワクチンに関しては9年間の積極的勧奨中止状態が続いていたため、国民に怖いワクチンという印象を持たれているということも、医師会として懸念を持っている。世界的には子宮頸がんワクチンの接種は一般的であり、国によっては子宮頸がんの発生も減ってきている中で、日本には多くの子宮頸がんの患者数がある。特に若い20代、30代の子宮頸がんの患者が多くなっている状況である。少子化の中で、子供を産み育てる世代の方が子宮頸がんにかかっていることは非常に大きな問題だと思う。積極的な勧奨に何卒ご協力いただきたい。行政、学校、企業等の中で、若い世代にどれだけ啓発活動ができるのかが重要である。

岸本委員：歯科医院において、啓発ポスター等の掲示を協力させてもらうことは可能かと思う。

今崎課長：歯科医院ではポスター掲示等はしていないため、ご協力いただければ非常にありがたい。改めて協議等させていただきたい。

松田会長：薬剤師会の方においても各薬局等において若い方々と接触機会があると思うが、ご協力いただくことはいかがか。

夏目委員：問題ないと思う。持ち帰って話を進めるようにしたい。

松田会長：京都市におかれては歯科医師会、薬剤師会との広報の協力について、是非とも積極的にお願いできればと思う。

太田委員：新型コロナワクチンも含めて、ワクチンを非常に多く打たなければならない状況の中で、子宮頸がんワクチンを打つことが良いのかどうかと悩まれる方や、リスクを考慮して控える方もいらっしゃると思う。例えばワクチンの接種会場等で、新型コロナワクチンとは別であること、ワクチンを打てば次はいつまで間隔を空ける必要がある等、そういった情報提供することも一つの方法かと思う。

松田会長：ご意見を参考にしながら接種勧奨に努めたい。長年にわたる積極的勧奨中止の影響は根深く、医療現場に来られる保護者、本人に理解をいただくのも難しい状況があるため、粘り強くやっていかなければいけない。

○ 議題・報告（４）令和４年度京都市保健所運営方針（案）について

⇒ 事務局（各所管課）から資料説明。

【質疑応答】

岸本委員：４点お聞きしたい。民泊に関して、コロナ禍でインバウンドが減少する等で空き家も増えていると聞く。今後民泊への対策をどのように推進していかれるのか。２点目は、母子保健について、歯科医師会に委託されている事業でも質を担保する観点から研修会を充実していただいているのは非常に感謝しているが、コロナ禍で従前の研修会が実施できない状況が続いているため、今後、積極的に再開していただきたい。３点目は医療的ケア児の推進会議について、歯科医師会がどのような関わり方をしているのか分からないのでまた教えて欲しいが、京都府でも同じようなことをされていると思う。生きていく上で大事なのはやはり口から摂取することで、医療的ケア児のお子さんたちでも訓練したら口から食べられるような方が結構おられるが、その辺りのフォローがないがゆえに、経口摂取できずに経鼻経管栄養や胃ろうの造設になって、口から物を食べることができない医療的ケア児さんも多くおられることを実感している。その辺りの関わり方が気になっている。４点目は、一市民としての意見だが、「自死遺族・自殺予防こころの相談電話～きょう ところ ほっとでんわ～」の所に電話番号が載っていたら啓発していく時に良いかと思う。

中濱課長：コロナ禍ということもあり、民泊が減っているというのは伺っている。数の増減については、特に京都市として方針等はないが、適切な状態で地域の方にとって安心安全な民泊施設が提供できるように、監視指導を強化していくという方針である。

寺山課長：母子保健の研修会について、なかなか対面ではできていなかったが、オンライン開催も始めている。引き続き、オンライン等を活用しながら研修会をさせていただきたいと思っている。医療的ケア児について、京都市では、医療的ケア児の支援連携推進会議を開催している。関係機関でどう医療的ケア児さんを支えていくのかという中で、医療的ケア児のコーディネーターを養成しているが、そのコーディネーターにどのような役割

で医療的ケア児の支援を支えていただくのかを考えるとシフトが重く置かれており、口から摂取することの議論は、そこまで行き着いていない状況である。今後、課題として取り上げてまいりたい。

北垣課長：「きょう ころろ ほっとでんわ」の周知という点で貴重な御意見をいただいた。ご指摘の通り、あらゆる場を通じて周知を図ってまいりたい。参考までに「きょう ころろ ほっとでんわ」の電話番号については、075-321-5560「ころろ まる」と覚えていただきたい。

松田会長：医療的ケア児に関しては京都府の「医療的ケア児等支援センター」が開設したところであり、業務内容に関しても詰めているところであるため、先生方のご意見を頂戴しながら、医師会としても京都府、京都市と調整していければと思っている。

太田委員：受動喫煙についてお伺いしたい。飲食店等に調査をされたと書いているが、お店の中で吸わずに店先で吸われる場合はどうなるのか。また、食品衛生協会は京都市内すべての飲食店が加盟されているわけではないが、会報誌を年2回発行しているため、情報提供いただければ受動喫煙について掲載できるため、ご検討いただけたらと思う。

絹村課長：会報誌への掲載についてまたご相談させていただきたい。ご質問内容について、基本的に建物の中はそれぞれ法で定められたものがあるが、そこから出たものは基本的には配慮義務となるため、その配慮義務の中で、できるだけ受動喫煙を防ぐためのお願いをするということになる。

（その他 質疑応答等）

中路委員：民生委員としては、「はじめまして！赤ちゃん訪問」を西京では頑張っている。コロナ感染拡大時は、訪問を希望するご家庭は少なかったが、令和4年に入ってから徐々に増えつつあるという現状である。

藤井委員：高齢者はコロナでなくても年々筋力低下してくる。コロナ禍では、出て行けなかった人も多かった。今月、うちの学区で公園体操を始めたら、役員も含めると50人近くが集まった。地域の皆さんが期待されていたのが分かった。ただでさえも衰えていく年齢であるため、そういう活動が広がり、続けていきたい。

佐藤委員：過去2年間、行事は何もしていなかったが、今年においては、協議会等、厚生部の事業等を行う予定としている。5月には京都府大会、7月には近畿大会があり、これまでは無観客で開催しているが、無観客をいつまで続けるのかと思っている。今後、どのような形で事業をしていいのかという点で、ご指導いただければありがたい。

松田会長：なかなか難しい問題かと思う。各業界でも我々の医療関係でも、徐々に対面の講演会等も始まってきている状況であるということをご参考にいただければと思う。

原口委員：新型コロナワクチンについて、3回目までファイザー、ファイザー、モデルナだったが、4回目でノババックス社ワクチンは打てないということか。

吉田部長：4回目の接種にノババックス社ワクチンを使うことはできない。

原口委員：もう一つ、インフルエンザのタミフルのような特効薬は、コロナではまだ出ないのか。

松田会長：タミフルのように医療機関で割と簡単に出せるような薬はない。予防薬、なかなか薬剤の開発は難しい状況で、処方に関してはハイリスクの方を中心に医師の判断によって処方しているという状況である。

食中毒の話であるが、飲食店の方は割としっかり管理いただいているかと思うが、食肉販売の方において、時々店の前で調理して出されているようなケースがあるが、許可はどうなっているのか。

志摩室長：路上での調理、販売については、営業される業種や形態に応じた許可や届出があり、それらに応じた指導・監視等を日頃からさせていただいている。

松田会長：カンピロバクターが毎年多いが、鶏肉の販売に関して飲食店もさることながら、そういうところで食べられた方がよく診察に来られるため、何とかご指導いただければと思う。毎年多くあり今年度も出ているため、お願いしたい。

4 開会挨拶

谷利保健所次長